

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字山田2734番地		
自己評価作成日	平成24年 3月11日	評価結果市町村受理日	平成24年 8月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年 3月31日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職の介護に対する質の向上、職員同士の連携を大切にチームとして利用者9名を支援している。  
 ご利用者様、家族の希望に出来るだけ添い機能的に対応できる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・日常生活の中で独自に工夫し、筋力維持のリハビリを行っている。また、毎日新聞やチラシを読んで地域の情報を伝え、脳のリハビリを行っている。日頃の訓練が自分で食べること、自分でトイレに行くこと、自分で話すことへ反映されている。  
 ・職員は一人ひとりを尊重し、持てる能力や思いを把握し、その人らしく生きられる支援をしている。  
 ・食事面でも旬の食材を美味しく、食べやすいように調理している。利用者は安心してゆったりと暮らしており、日頃の訓練で声を出していることから、言葉で思いを表し、活力がみられる。  
 ・地域の方や家族の協力を得て、夜間避難訓練も実施されている。

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

事業者名:

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し全員が確認し地域との関連性を重視した理念を大切にしている。ミーティングでは、理念を全員で理解するよう、また具体的ケアについて確認し合っている。	ホームの看板に理念を明示して、地域や家族・職員が必ず見られるようにしている。利用者が大切にされていることが実感できるように安心安全なケアをめざし、職員は支援にあたっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達からの畑の作物の差し入れもあるが施設から積極的に行くことはない。	地区の小学生が定期的に本の入れ替えに訪問し、紙芝居を行うなど交流がある。ボランティア訪問が各月にあり、花植えを地域の方にお願ひし、触れ合う場づくりを心掛けている。また、地域の介護者の相談など受け入れられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践を踏まえ認知症サポーターの育成に努めている。認知症について地域の方からの相談もある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の検討事項や勘案事項を実践できるものは実践し一つ一つ積み上げている。	2ヶ月ごとに開催。利用者の状況報告や感染症など時節に応じた話し合いを行っている。運営推進会議を通して地域との結びつきや、災害訓練の協力体制に繋がっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会運営会議の折りに、ご利用者の暮らしぶりを見て頂いている。	地域包括支援センターと認知症サポーター養成活動を行い、在宅介護者の問題点について双方の気づきの場となっている。市役所担当者と気軽に相談できる関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束についてミーティング時に話し合い職員共有認識を図っている。夜間帯のみ施錠している。	全室掃き出し窓で、玄関や自室が開放的である。外出傾向のある人に対しても寄り添う支援をしている。言葉による拘束も認識しており、話し合いや研修などに参加し、拘束のないケアを目指している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の体に現れた内出血等はボディチェックノートに記載し、原因追及・再発防止に努めている。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。 これから職員に説明を行い、ご利用者の支援に結びつけたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け丁寧に説明している。 特に利用料・リスク・重度化・看取り・医療連携ケアについて事業所の取り組みを説明し、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの訴えに対しては耳を傾け、要望に応えられるよう努力している。	家族が面会によく訪れ、職員と気軽に話し、双方の要望や意見を出し合っている。利用者は思っていることや要望を職員と語り合っ、生活に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の要望や意見を聞くよう心がけているが、把握しきれない可能性がある。	ミーティングで職員体制や勤務体制などを話し合い、改善に向け取り組んでいる。職員は要望について率直に意見を出し、連絡ノートも活用している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に支援している。 職員同士の人間関係の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT体制を取り、ケアの技術・ご利用者への関わり・職員間の連携を丁寧に指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会はあるが、行けないのが現状である。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、ご本人が発した言葉の一つひとつに耳を傾け、不安解決の為に何が出来るか、皆で話し合いながら介護を支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安に思っていることにも耳を傾け、どのようにしたら良いか職員間で話し合い、ご家族へも提案しながら支援を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なことは、他職員と話し合いながら支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実践出来ているが不十分。常に心にとめておく課題であると考えている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にお願いしたいことは、面会時や電話にて、お伝えし可能な限り協力して頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの人との関係が途切れないように努めているが、疎遠になっているご家族が多い。	月2回子どもたちの訪問で馴染みの関係ができています。墓参りや椎茸取り、親せきや友人宅訪問など個別の支援がされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が難しい場合には、職員が間に入ることで、ご利用者同士のコミュニケーションがとれるよう支援を行っている。		



事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者とは、断ち切らない関係づくりが出来ているとおもわれる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めているが、実践されていない。	職員は一人ひとりと話し合い、じっくりと観察して、思いや希望を詳しく把握している。把握した情報は一部はアセスメントに記入されている。思いや希望はケアに活かしている。	職員の入替わりや新規採用時も利用者の情報が共有できるよう、知り得た情報の記録が望まれる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のリズムで過ごして頂きたいが、レクレーション等、9名同じ時間に同じ事をすることが多い。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からの観察、他職員の意見等を参考にし、現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回のミーティングにて、モニタリングを行いご本人やご家族の意見について皆で話し合い、よりよい介護につながるよう、介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、ミーティングで毎月話し合い、状態に応じて随時、見直しをしている。本人が楽しく暮らせるよう計画作成され、職員や家族も意見を出し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をよく観察し、細かく記録をすることで、ご本人が必要としている介護とは、何か気づくことが出来るよう申し送りもこまめに行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスがマンネリ化している。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望や体調に応じて、訪問美容院サービスを利用している。 定期的なボランティアの演奏や外出行事を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どのご利用者が適切な医療を受けられているが、一部不十分な方がおられるのが現状である。	入所前から利用していたかかりつけ医を継続している。家族が付き添う時は状況やバイタルを記録し、持参してもらい、結果についても報告を受け、双方で情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、看護について疑問に思ったことなどを看護師へ相談し、連携を図りながら解決に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換が主であるが、関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態変化が起きた際は、その都度ご家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明し方針を共有している。	家族と職員で方針を共有し、事業所の職員数や状況をみて家族と話し合い、事業所対応困難時については、適した支援ができるよう努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・事故発生時に備えて講習に参加したり、講師を依頼し学んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、ご利用者・ご家族・地域・消防の方々に協力して頂き、避難訓練を実施している。	家族や地域住民の参加による訓練を年1回実施している。家族会会長と近隣へ協力依頼のお願い回り、夜間訓練も行っている。消防署の指導で室内に消火ホースを取り付け、初期消火も可能である。また、毎月ホーム内での避難訓練を行っている。	

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を不快に思わせることがないよう、声かけ、接し方には留意している。	接遇の心構えを学習し、全職員で尊厳のあるケアを目指している。傾聴の具体的方法や声かけも、優しくその人の分かる言葉で、丁寧に話すよう学習している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思を尊重し介護にあっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者第一と考えているが、過ごし方が統一されがちである。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚染があるまま過ごすことがないよう、配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベル低下があり、一緒に準備・片付け等は行っていない。 旬の食材を取り入れたり、利用者の好みをお聞きし調理している。	旬の食材を食べやすいように調理し、自分の力で食べることができるよう配慮している。 ゆっくり食べる人や自室で食べる人など個別に対応している。利用者同士で話が弾み、美味しいと満足している。食べることもリハビリとなるよう工夫している。	昼食時間だけでも職員と同じテーブルを囲み、家庭的な食事となるよう職員での話し合いを期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚・野菜・特に野菜を多く取り入れている。 一日の水分量をチェックし少ない方には、お声をかけ飲んで頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行い一人ひとりの力に応じた歯磨きのお手伝いをしている。 週1回、義歯をポリグリップにて洗浄消毒している。		

事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排尿の間隔が普段よりあいている場合は、自尊心を傷つけないよう、声かえし、トイレで排泄できるよう支援している。	布パンツにパットを利用し、できるだけトイレで排泄できるよう誘導している。自分から自主的にトイレに行けるよう、筋力維持の運動を毎日行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は毎日、栄養バランスの取れたものが提供されている。 便秘気味の方には、リハビリや水分を多めにすすめる等行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日が確定されているが、希望者がいる場合には、その日に入って頂くことや、変更時には、ご本人に説明・納得された上で入浴して頂くことがある。	週に2回入浴し、日曜日は全員足浴している。また水虫の人は毎日個別に足浴し清潔保持に気を付けている。体調により清拭やシャワーなど、随時対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝希望の方には居室にて昼夜逆転にならない範囲で昼寝をして頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方された場合には、副作用や留意点について調べ情報を共有している。 服薬チェック表を使用し、確実な服薬に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことに着目し、生き生きと過ごして頂けるような支援を目指している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換のための散歩は実施しているが、買い物など公共的な場への外出は、ほとんどない。	天気の良い日は庭先の陽だまりで日光浴や散歩を楽しんでいる。福祉バスを活用して、季節ごとに観光地や花見など出かけている。寒い時は室内から馴染みの山々や景色が見渡せ、毎日新聞を読んで近所の情報や季節の情景・スーパーでの安売り情報など伝えている。	



事業者名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりおこづかいをお預かりし、事業所が管理している。 外出時は、おこづかいを渡し、ご自分で払って頂けるよう工夫している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。 また、お礼の電話は必ずかけるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけ、毎日の清掃を心がけている。	季節の花をたくさん飾っており、手作り作品や馴染みの本・新聞などが身近にあり、家庭的である。また、独自のリハビリ用具が用意され、日常生活の中で好きなようにリハビリできるよう配慮がみられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中での区切りがない。 日当たりの良い場所にソファを設置し気の合った、ご利用者同士で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人からの要望が少ないのが現状であるが、出来るだけ家庭のような家具の配置を心がけている。	自宅で使っていた家具や馴染みの小物が用意され、自分らしい部屋となっている。懐かしい写真や家族の思いのこもったものもあり、家庭的な雰囲気過ごせている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのための空間としては、手すりが必要だったり、高さが合わなかったり、段差が危険であったり不便もある。		